

ニュースレター 春/夏号

テキサス日本語教師会
Japanese Teachers Association of Texas



会長のご挨拶

テキサス日本語教師会 会員の皆様、

学期末が近づいて、生徒と日本での引率や授業から一息の時間などの夏の予定を楽しみにしていることと思いますが、いかがお過ごしでしょうか。

さて、2023年度は、理事のプレフューメ先生(Baylor University)と共に、私会長の北條(The Woodlands College Park HS)、副会長のハリス先生(University of North Texas)と加藤先生(Johnson HS)、書記の鈴木先生(Rice University)、会計の高山先生(Rice University)の五名で役員を務めさせていただいています。

Japan Foundation より助金をいただいたおかげで、今年もまた教師のサポートや日本語教育と関係している勉強会やSIGなどの活動を提供できます。先月ペンシルバニア大学の高見先生が受講する勉強会が開かれました。DEIについての今注目すべきトピックが主な内容で、六時間があつと言う間に過ぎました。久しぶりの対面で、お越しいただいた先生方とのキャッチアップができ、改めてテキサス州内のネットワークの重要性を認識しました。次回のワークショップはSIGを2つ行う予定なので、夏休みの明け、準備が整えた次第、ご報告いたします。SIGは四つのテキサスの大都会（ダラス・オースティン・サンアントニオ・ヒューストン）での地区対面で行う形で、一人の先生のご自宅で集まっただいて、ズームで行われる予定をしております。近くに住んでいらっやらない先生は一人で参加することは可能

1

会長のご挨拶
ウッドランズ高校
北條エリザベス

3

Japan Exchange and Teaching
Program
ヒューストン日本領事館
JETコーディネーター
マシュー・クライン

4

Message from JASDFW
ダラス・フォートワース日米協会
レベッカ・ピネダ

5

会員のご紹介
上智大学
リード真澄

6

2023年度
JTAT勉強会実施報告
JTAT書記
鈴木真美子

7

DEI関連イベントを実施して
ベイラー大学
藤井佳子

9

テキサス・ファッション・
コレクションの見学
ノーステキサス大学
アンジェラ・ハリス

11

日本語教育に役立つ
新刊のご紹介
ベイラー大学
プレフューメ裕子

13

役員のおススメコーナー
JTAT役員一同

17

TFLA Fall
Conference Presenters

編集後記

ですので、楽しみにしてお待ちください。もし、講演していただきたい先生が思いついたら、役員まで発表者のお名前を推薦してください。よろしくお願いたします。

それから、今年の定例会はTFLAで行われま
す。去年の学会は3年ぶりの対面でしたが、
非常に楽しく勉強できた時間となりました。
2023年度もまた対面で、オースティンで11
月3日から5日まで開かれるので、多くの先
生方が参加できるよう、JTATの方でサポート
していきたいと考えております。もし、所属
の学校から登録金が出ない場合、または新会
員でTFLAに行ったことがない先生がいらした
ら、役員までご連絡ください。二人以上車で
来た場合、カーピングへの助金も出しま
す。会員の皆さまとまた会えるのを楽しみに
しております。

そして、ご報告なんです、JTATはSecretary
of Stateの方で正式にJTATという名前が使える
ようになりました。旧名のTeachers of
Japanese Language & Culture Association of
Texasでしたが、銀行の方で書類がなかなか一
致していないため、会計の引き続きが遅れま
した。その節はご迷惑をおかけして、申し訳
ございませんでした。しかし、無事に銀行の
口座名が変更され、Secretary of Stateの
書類も揃えていますので、問題なく活動は続
けると思います。JTAT会費はAATJにそって、
\$15ドルから\$16.50となりました。会費は
チェック、またはVenmoで支払えるようにな
りましたので、会計の高山先生まで声をかけ
てください。今まで通り、経済的な面から慎
重にJTATの活動を続けて参ります。

もう一つを付け加えさせてください。今まで
会員になってくださった先生方、家族との貴
重な時間を使ってまで、JTATのために様々な
形で協力して、頑張ってくださいありがとう
ございました。JTATが90年代に始まって、
大きくなって、コロナ禍を乗り越えて、ここ

まで来られたことはやはりテキサス日本語教師
の皆さまの積極的な接し方や努力のおかげだと
強く確信しています。言葉が足りないぐらい、
感謝し切れません。

個人的なことなんです、息子のウェイロンが
赤ちゃんの時から私の仕事している姿を見てき
たことを最近ふと頭に浮かびます。皆様もご家
庭で同じような思いをしているのではないかと
思います、ワークライフバランスを大事にする
ことを教師の忙しさの中でお忘れないでくだ
さい。私は数年前は家で成績をつけたり、レッ
スプランを夜遅くまでしたりしたのですが、
ウェイロンとの楽しい時間を増やせるよう、な
るべく4時か5時にはオフスイッチを押すこと
にしています。こうしているだけで、ウェイロ
ンとハリーポッターの映画を見たり、ローラ
スケートをしたりするなどの楽しく時間を過
せています。こんな未熟な私が遅れて気づいた
ことかもしれませんが、先生方もワークライフ
バランスがうまくできるよう、どうか休日を大
事に自分へのケアとして使ってください。お互
い支え合っていきましょう。何か必要となりま
したら、いつでもご連絡ください。これからの
JTAT活動をどうぞ温かい目で見守っていただ
けたら幸いです。

引き続き、どうぞよろしくお願いたします。

テキサス日本語教師会会長
北條エリザベス





JAPAN EXCHANGE AND TEACHING PROGRAM

JETコーディネーター
マシュー・クライン

Dear Members of the Japanese Teachers Association of Texas,

Greetings! I am Matthew Klein, the JET Program and MEXT Scholarship coordinator at the Consulate General of Japan in Houston. Thank you for this opportunity to share information about our programs.

2023 JET Information

With 82 shortlisted candidates, the 2023 JET cohort is the largest ever for our consulate. Of the 82 selected JETs, 44 attended a university that had at least one instructor belonging to JTAT. We are honored to have so many candidates from Texas and Oklahoma representing our region in Japan, and we are looking forward to their continued contributions to U.S.-Japan relations after they complete their term on the program.

Thank you for your part in fostering interest in Japan and the JET Program in your local communities.

Formats of Future Activities

Our activities will use both in-person and virtual methods based on effectiveness. For the 2023 JETs, our orientation and Q&A programming will remain virtual to serve the many JETs who are unable to gather in Houston for training workshops. On the other hand, our departure reception will return to an in-person format for the first time since 2019.

For the 2024 JET recruiting period, we plan to visit major cities in Texas and Oklahoma for large university fairs and information sessions. If logistics or scheduling prevent us from visiting directly, we can offer online information sessions, or sponsor presentations by JET alumni in your area.

Tips for Applicants and Recommenders

In order to achieve the mission of providing effective employees and cultural ambassadors to local governments and prefectures in Japan, the JET Program carries out a thorough selection process. If your students taking language courses would like to improve their applications, I recommend they expand to additional activities, such as taking culture or history courses, volunteering with Japanese organizations, or practicing a cultural hobby.

We also pay close attention to the recommendation letters you write. Very positive letters that show personal knowledge

MAY 23, 2023

of an applicant are often able to push them through to the interview stage. On the opposite end of the spectrum, a negative recommendation letter can be used to directly notify the JET selection committee about a concerning candidate at the early application stage.

MEXT Japanese Studies Scholarship

Finally, I would like to take this opportunity to publicize our Japanese Studies MEXT Scholarship. This annual scholarship is open to current undergraduate students majoring in Japanese language or culture fields. The application period opens in early winter. Successful candidates are sent to Japan for a one-year period from September or October to study either culture or language at a university. The scholarship offers a living allowance, full tuition, and airfare to and from Japan. For the full details, please see the Government Scholarships section of our Consulate website or contact me directly. I hope this information serves you well. For any JET, MEXT, or Consulate questions, please contact me by email at JETcoord@ho.mofa.go.jp. Thank you again for this opportunity and your ongoing support.

Matthew Klein

JET Program & MEXT Scholarship Coordinator
Consulate-General of Japan in Houston
Tel: (713) 652-2977 ext. #2114



MESSAGE FROM JASDFW

レベッカ・ピネダ

Mark your Calendars for the beginning of November! The Japan-America Society of Dallas Fort Worth is hard at work bringing one of the most acclaimed High School Competitions for Japanese Teachers here to North Texas. Having visited the National Japan Bowl held this year at the University of Maryland, we were inspired to bring a regional competition to North Texas. Of Course, Students from all across the great state of Texas are welcome to join and compete. JASDFW is partnering with the University of Texas at Dallas to hold this inaugural competition on their campus and make it a Saturday students will remember.

The competition works like this: Teams of three from many different schools are sponsored by a teacher to study for the competition. On the day of, students will all participate in a preliminary round consisting of 50 questions. What are these questions about? Japan, of course! Questions cover Japanese Language, Culture, History, Geography, Literature, Politics, and more! The three teams to score the highest in the preliminary round will begin the afternoon

Championship Round, where they will compete live with a buzzer system for the title of 2023 North Texas Japan Bowl First, Second, and Third Place. This might sound like extra work for teachers, but the good news is everything is prepared by JASDFW. All you have to do is get your students excited to study about Japan and work with your local school to get the students to the University of Texas at Dallas in November! If you have any questions about this competition, or would like information to give to your students and a form to give to your principal, please email rebecca@jasdfw.org. (日本語OK)



**WELCOME BACK TO TEXAS!
INTRODUCTION OF RETURNING MEMBER**

上智大学 リード真澄

JTATが成立した1990年代、初代の会長をさせて頂いたリードです。1993年から2017年までウッドランズ高校に勤務し、AATJの役員やAP Examの作成添削などの貴重な経験、テキサス及び全米の日本語教師の皆さんとお会いする機会にも恵まれました。2000年頃始めたシャドーイングの研究と教材作成は今も続けており、一部を作成したテキストが今年出版されます。

テキサスでの日本語教師時代は私にとって懐かしい思い出となっています。毎夏20名ほどの学生の日本旅行・学校訪問・ホームステイを実施、日本の高校からも年に2回短期研修生を受け入れ、この交換プログラムを21年間続けました。日本人に会う機会が少ない学生たちに日本の高校生と親しくなってもらいたいと

願い、日本語のみならず日本人や日本文化に触れる機会として様々な活動を実施していました。

2017年に退職し、帰国。母校上智大学大学院で、若い頃からずっと望んでいた第二言語習得の研究を始め、「語用論」を専攻しました。文化や社会が言語に与える影響を知ることは学習者にとって大切な要素となることから語用論に関心を持ったのです。テキサスの先生方には論文のための調査で大変お世話になりました。2020年にJTATでこの語用論をベースにしたオンラインワークショップをさせて頂き、私自身、実際の授業で使う方法を考える機会になったことを有難く思っております。

帰国後は出身地東京での生活を楽しみ、仕事から離れて研究に集中できました。修士課程終了後、上智大学の非常勤講師として初めて大学生、大学院生に教えることになり、日本語習得が重要な目的である日本語学習者(留学生)の熱心な学習態度に感動しました。コロナ禍で2年間続いたオンライン授業は昨年4月から対面となり、心から楽しんでます。また、欧州、アジア、北米、中南米など様々な国からの留学生との出会いも喜びの一つです。授業の準備に相変わらず時間をかけ、学生との繋がりも大切にしています。もうしばらく日本語教育を続けたい気持ちもあるのですが、現在テキサスで「人生の次の目標」を検討中です。ただ、人生最大の楽しみと喜びを与えてくれた日本語教育からは完全に離れることなく、大学退職後も関わり続けて行くのではと思っています。4月末にサンアントニオで高見先生のワークショップに参加し、DEIに関する貴重な勉強をさせて頂きました。JTATの先生方と再会できたことも本当に嬉しく思っております。これからもJTATに所属させて頂きます。どうぞよろしく!

2023年度 JTAT勉強会実施報告

JTAT書記鈴木真美子

2023年4月30日、テキサス大学サン・アントニオ校のキャンパスで現AATJ会長のペンシルバニア大学の高見智子先生を講師としてお迎えし、JTAT夏の勉強会が開催されました。

勉強会前日の土曜日にはプレフューメ裕子先生と高見先生を始めとして、他の役員や会員の先生方、そのご家族を合わせて、ピククルボールのゲームで勉強会の週末を開始しました。



夜はサンアントニオ在住の先生方のお勧めで Sushi Zushi というスシレストランで親睦会を開きました。ノーステキサス、ウッドランズ、オースティンなどから会員の先生方が集まり、久しぶりに対面での食事を楽しみました。

勉強会当日の4月30日、午前9時から午後4時まで、McKinney Humanities Building において、『未来を創る日本語教育をめざしたカリキュラムデザイン』というテーマで



Diversity (多様性), Equity (公平), and Inclusion (包括性) をどのように日本語の授業で取り上げるかについて話し合いました。

私たちは日本語教育を通して何ができ、何を教えたいのでしょうか。どのような学習者を育成したいのでしょうか。私たちはどのような日本語教育を実践したいのでしょうか。これらの問いについて話し合いながら、カリキュラムデザインを考えました。参加者の先生方は11名で、今月新しく入会した会員の先生も加わりました。

午後の第二部では小グループに別れ、初級、中級、上級の各レベルでDEIを扱う際のレスポランを交換しました。

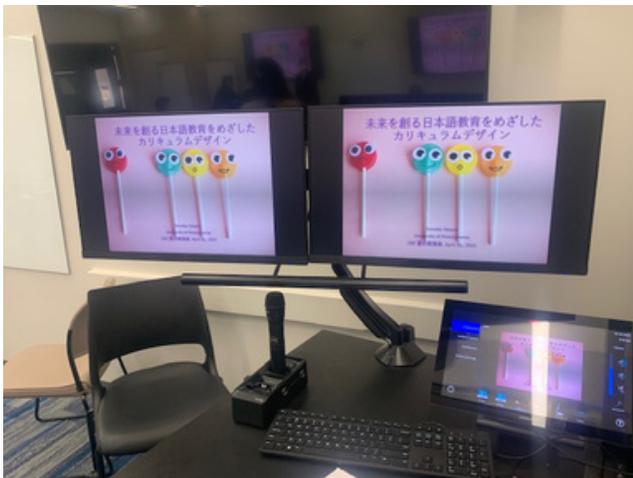
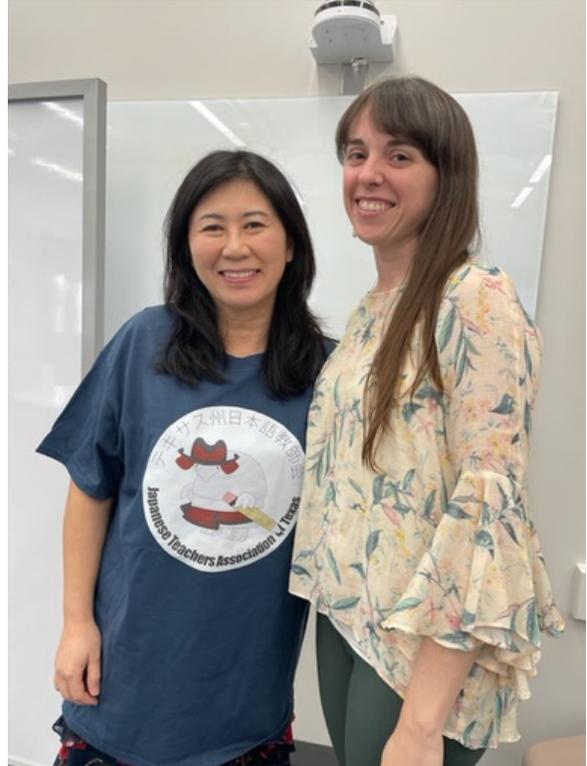
勉強会後のサーベイの結果によると、参加者の満足度は100%で以下のコメントをいただきました。

1) DEIを授業にどうやって取り入れるか、初級から上級レベルまで、意見交換をし、実際に教案を考えることが勉強になりました。

2) I totally enjoyed the workshop and learned a lot. There was a hands-on group activity and I liked it to see how other experienced teachers handle the tasks.

3) Everything covered in the workshop was very informative. I appreciated the fact that we learned practical ideas that can be applied easily to our own instruction and Takami sensei created many idea sharing opportunities. To me, how to address DEI in the beginning level will be especially useful.

4) 教師として学生と色々な情報や問題などをシェアして、日本のことのみならず自国に関する情報や問題も授業を通じて話し合ったり考えたりする機会がいかにも重要であるか認識しました。ワークショップに参加して本当に有意義でした。もっと多くのJTATの先生方にご参加頂けたら良かったと思っています。対面で高見先生のお話を聞いたことのみならず、JTATの先生方と一緒に話し合えたこともとても良かったです。



春学期末の忙しい中、参加して下さった先生方も刺激を受け、新しい知見を得ることができたのではないかと思います。

DEI関連イベントを実施して

バイラー大学 藤井佳子

みなさんの学校や大学でもDiversity Equity Inclusion (DEI)のイベントやコミティーがあると思いますが、私は2年前から学部のDEIコミティーのメンバーとして活動しています。外国語を教えているとそれだけでDiversityに貢献しているのではないかと考えてしまいそうですが、スペイン語などはスペイン語圏を考

みえただけでも色々な文化があり、スペインばかりとかメキシコばかりとかにならないよう積極的に多様な文化を入れていく努力がなされています。それでも、LGBTQ+コミュニティのメンバーも歓迎されていると感じるような努力は、なかなかのようです。人称代名詞 personal pronounsにおいてもジェンダーニュートラルなものを使う教師もいれば、「それは使われていない」という教師もいるようです。みなさんはInternational Pronouns Dayというのがあるのをご存知ですか。2018年に始まり、毎年10月の第三水曜日に祝われています。去年初めてそのような日があるのを知り、早速バイラーキャンパスで



International Pronouns DayのGallery Walkを実施しました。私たちの学部で教えている言語の人称代名詞に関するポスターに興味のある人が回って読む、というものです。日本語では「君の名は」の一場面で主人公の三葉という高校生の女の子が瀧という高校生の男子の体と入れ変わってしまい瀧の友人と話すときに自分のことを「わたし?」「わたくし?」「ぼく?」「おれ?」と言い直すシーンがあります。日本語を教える時も男の子が「僕」を使って女の子は「私」を使うという説明ではしっかりこないと感じてしまうようになったと思います。



また、このコミティーでは今学期に2回DEIをプロモートするような映画の鑑賞会をしました。一回目はアフリカ系ドイツ人のドキュメンタリーで、2回目には日本のショートフィルムで「Whole (2019年作)」という作品を鑑賞しました。「ハーフ」というドキュメンタリーを覚えている方もいると思いますが、「Whole」はハーフと呼ばれる二人の若い男子の葛藤と自分のアイデンティティ探しという内容のフィクションです。脚本と主演の川添ウスマンと監督の川添ビイラル自身日本人の母と別の国出身の父親とのハーフです。二人の主人公は経済的にだいぶ違うバックグラウンドを持っていますが、ハーフという共通点で友情を育みます。カメラワークも美しく、短いながらも二人の成長が見られるストーリーで、会話が少ない静かなシーンが多いのに見る人を惹きつける秀作と



なっています。参加した学生からもハーフや留学生としての自分の経験も交えたコメントがたくさん出ていました。喫煙と飲酒のシーンがあって中高生には向いていないかもしれませんが、Amazon Primeでもレンタルできるようです。ぜひお勧めします！

先日の夏の勉強会でも高見智子先生がDEIをプロモートする授業についてお話してくださいましたが、DEIのトピックに少しずつ触れたり、意識をちょっと変えたり、そんなことの繰り返しを通してみんながありのままの姿で受け入れられる社会へと前進できるのではないのでしょうか。

テキサス・ファッション・コレクションの見学

ノーステキサス大学 アンジェラ・ハリス

私は今年の二月、ノーステキサス大学の美術・デザインカレッジに所属する、テキサス・ファッション・コレクションから、学生を連れて日本の服に関する発表を聞く誘いを頂きました。4年生のクラスで使っている教科書、「上級へのとびら」の第12課でちょうど日本の伝統工芸についての読み物があったので、伝統的な日本の服を近くで見るチャンス

になるのではないかと思います、喜んで招待を受けすることにしました。



テキサス・ファッション・コレクションとは、ノーステキサス大学にて、千年以上の歴史をかけて、5つの大陸からの衣類を20,000点以上揃えている所です。伝統的な着物や織物から三宅一生や川久保玲の現代の作品まで、近くで見て、スタッフの方からとても丁寧で分かりやすい説明をお聞きできました。特に第二次世界大戦後にアメリカで差別を乗り越えて活躍していた森英恵さんなどの日本人デザイナーについての話を伺え、とても貴重な機会になったと思います。学生も積極的に質問を聞き、後で自分の感想を日本語で書いてくれました：

- “Texas Fashion Collectionの和服のことは面白かったです。特にファッションデザイナーの歴史や服の目的の事です。日本のファッションデザイナーはアメリカに広げるためにダラスから服を売れたのは知らなかったです。また、1970時代から服はとても美しく、びっくりしました。デザイナーは和服と洋服の魅力を使ったのは素晴らしいと思います。なんか、デザイ



ナーの考え方やビジョンは複雑だったかなと思ったので、それで服のことを感動しました”

- “日本とテキサスにはファッション文化でも多くの関わりがあることを学びました。私は以前から服を作ったり、デザインしたりすることが好きなので、今回のように日本の有名なデザイナーの事をこんなにも熱心に話してくれるUNTスタッフの方に改めて感謝せずにはいられませんでした...また改めてファッションのビルディングを尋ねてみたいです”



- “三宅一生の1325というデザインに関する考え方は、日本からのちえを使い、折り紙のような服装を作成しました。私は様々な服装の中で、1325ドレスは最も面白いと思いました。しかも、1325に関する始まりや考え方などをさらに調べてみたいです。そして、自分の作品でも、その考え方を生かしてみたいです。”

テキサス・ファッション・コレクションのオンライン化も進み、日本からの物も含めて8500点以上の衣類が見られます。ご興味のある方は是非、以下のリンクでご覧ください!

<https://digital.library.unt.edu/explore/collections/TXFC/>



左上から： 緋の布、森英恵、三宅一生、川久保玲の作品
<https://digital.library.unt.edu/explore/collections/TXFC/>

日本語教育に役立つ 新刊のご紹介

プレベイラー大学 フェューメ裕子

1. International Exchange in Basic Languages: Activities for Exchange Partners 村田 晶子/長谷川 由香/河内 彩香/プレフェューメ 裕子/竹山 直子 [編著]



https://www.jstage.jst.go.jp/article/jlp/3/0/3_1/_article/-char/ja

このテキストは国内学生と国際学生が授業、課外で交流する際に活用することができます。テキストを使うことにより交流パートナーと一緒に活動をしたり、ディスカッションをすることができます（初級から上級まで対応）。日本語だけでなく、日本語と英語、あるいはその他の言語を組み合わせた交流にも使えます。また、オンライン交流にも対応しています。このテキストの特色は次の5点です。①身近なテーマから社会問題まで話し

合える、②対面とオンラインの活動が選択できる、③やさしいことばや複数の言語、多様なリソースを使って交流できる、④主体的な交流のための心構え、ヒントが書かれている、⑤振り返りによる学びの可視化ができる。このテキストは会話パートナープログラムのみならず、多文化共修科目、複数のクラスの連携、国際協働学習(COIL)、短期日本語プログラム、国際交流サークルの活動、地域の日本語教室、青少年交流などにも活用することができます。

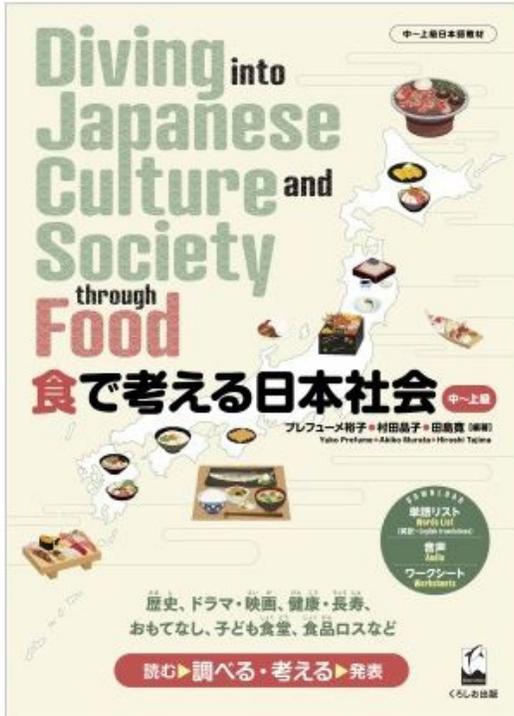
This textbook was created for Japanese and international students to interact with each other inside and outside the classroom. The textbook facilitates activities and discussions with exchange partners (for beginner to

advanced level). It can be used not only in Japanese but also in Japanese and English or any other language combined, and in both face-to-face and online exchanges. This textbook seeks to accomplish the following five objectives: 1. To guide students through discussions from familiar themes to social issues, 2. To allow students to choose between face-to-face and online activities, 3. To facilitate students' interactions using basic language, multiple languages, and a variety of resources, 4. To provide examples and tips for proactive interaction, and 5. To promote learning through reflection. This textbook can be used for conversation partner programs, multicultural collaborative learning courses, international exchange circle activities, collaborations between multiple classes, collaborative online international learning (COIL), short-term Japanese language programs, local Japanese classes,

youth exchanges, etc.

2. 「食で考える日本社会」

Diving into Japanese Culture and Society
プレフューメ裕子/村田晶子/田島寛 [編著]



<https://www.9640.jp/nihongo/ja/detail/?944>

外国語教育においてモチベーションを促すのに重要な要素の一つに「内容重視の外国語教育 (Content-Based Instruction)」があります。「内容重視の外国語教育」とは、学習者が興味をもてる内容 (テーマ) を学ぶ過程の中でことばの力も伸ばしていく方法です。では、どのような内容を選ぶかという、それは「食」が相応しいテーマの一つではないかと考えられます。なぜなら、「食」は人間なので、日本社会を多面的に探ることができるようになります。

本書はこのようなことをふまえて作成した「食」と「社会」を中心に据えた日本語教材です。各章では「食」に関する読み物から出発して、さまざまな社会現象や社会課題を調

査し発表するプロジェクトを行い、発展練習として世界中で取り組まれている持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals/SDGs) についても考える機会も提供しています。

“Content-Based Instruction” is a method of improving language skills through the process of learning content. So, what kind of content should we choose? We believe that “food” is one of the most appropriate themes. Very few people have no interest in food! It is

an excellent topic for enjoyable language learning because it is something we all relate to as humans. With this topic, we can explore many facets of Japanese society, starting with preparation and ingredients, then connecting it to various societal themes such as geography, culture, history, media, health, labor, education, gender, and more.

This Japanese language teaching resource places both food and society at the heart of learning. Each chapter begins with reading on food followed by research and presentation projects on various social phenomena and issues. As a development exercise, the book also provides an opportunity to consider Sustainable Development Goals (SDGs) being addressed around the world.



JTAT役員おススメコーナー



会長：北條エリザベス おススメのレシピ！

日本の調味料さえあれば、いろいろ作れますよね。アメリカ人の私ですが、うまみがすごく効くレシピを三つ紹介したいと思います。

手軽で簡単できちゃう 白菜のポン酢和え

材料：

- 白菜（1/4）
- 鰹節（1パック）
- ポン酢（好きなだけ・手作りのレシピは以下）
- 手作りポン酢：
 - 醤油（大さじ2）
 - お酢（大さじ1）
 - みりん（大さじ1）
 - レモン汁（大さじ1.5）
 - 出汁の素（少々）

下拵えで白菜をざく切りにして、軽く茹でます。茹でたら、水を切って、手でさらに水を絞って切ります。ポン酢と鰹節を加えたら、副菜の一つの出来上がりです！酸っぱいものが好きな人にオススメです！



家で韓国料理（ウェイロンの大好物）フィッシュケーキ

- 醤油（大さじ1）
- 蜂蜜（大さじ1）
- 豆板醤（大さじ1.5~2; Shirakikuがオススメ）
- ごま油（小さじ1）
- 玉ねぎ（1/2個）
- 人参（細め1っポン）
- 青ネギ（好きなだけ）
- 韓国おでん細めのfish cake（8枚ぐらい）

玉ねぎと人参を千切りにして、フライパンに油を引いて、焼きます。柔らかくなったら、韓国おでんを加えて、焼き色がつくまで焼きます。調味料を加えて、かき混ぜて、終わりにごま油と青ネギを入れると完成です。うちの定番の一つでよくウェイロンが無言食べてくれます！



JTAT役員おススメコーナー

シーサー風のおしゃれな白菜の食べ方

- 白菜（1/8分；株元を残し）
- ベーコン（3枚）
- シーザーサラダドレッシング（好きなだけ）

ベーコンをみじん切りにして、フライパンでよく焼きます。フライパンから取り出し、余った油をすこしキッチンペーパーで拭いて、切った白菜を焼き色がつくまで両面に焼きます。少し塩コショウして、お皿に乗せて、ベーコンとシーザードレッシングをかけたら、出来上がりです。すごく簡単にできる一品なのですが、アメリカ人の友達にすごく美味しいと言ってくれています。ちょっと贅沢な気分になれる料理です。

以上、シェアしたい三つのレシピでした。どうぞお試しください。ご感想の作れっぽをたくさんお待ちしております！



副会長（高校）：加藤友夏 2023年1月期ドラマ、ゆか 一押しのドラマベスト3！

- ベスト1：畏の戦争



- ベスト2：リバーサルオーケストラ



- ベスト3：三千円の使い方



服会長（大学）：アンジェラ・ハリス

YouTubeのTHE FIRST TAKE

おすすめのパフォーマンス

中学校の独学の時から日本の音楽を楽しみながら日本語を勉強するのが好きで、新しい日本の音楽と出会うには、一発撮りで色々なミュージシャンが演奏するTHE FIRST TAKEというチャンネルがおすすめです。私にとって特に印象に残ったパフォーマンスをいくつか紹介したいと思います。

女王蜂「火炎」



<https://youtu.be/gn-YwSmEzNc>

「どろろ」2019年版のアニメの主題曲として初めて聞いて、一人の歌手で歌われている曲だととても信じられませんでした。低音から高音に一瞬で変えられる、鳥肌立たせるような広い声域と惹きつける表現力で大ファンになり、ぜひたくさんの人に知ってもらいたいと思うようになりました。（他に「HALF」、「夜天」「始発」「Introduction」がとてもおすすめです！）

Creepy Nuts「かつて天才だった俺たちへ」

<https://youtu.be/QRajFRjuZFY>

歌い方も上手く、励ましになる歌詞も好きで、演奏している二人の話すところを見るのも面白いです。（他に「のびしろ」「助演男優賞」がおすすめです）

JTAT役員おススメコーナー



中島美嘉「雪の華」



<https://youtu.be/fcVHGZVcKDI>

高校時代から好きだった曲です。歌手が2010年から患っていた耳管開放症から回復したときのパフォーマンスで、困難なときを乗り越える強さと息を奪われるような表現力が素晴らしいです。同じTHE FIRST TAKEで出演された「僕が死のうと思ったのは」にもとても感動されました。

会計：高山裕美

おすすめのYouTuber

Kevin's English Room:



<https://www.youtube.com/@KevinsEnglishRoom>
ジェスチャーの回を授業で使いました。

JTAT役員おススメコーナー

で、まだ記憶にある歌詞は演歌ものが多いです。学生にひらがなの読み方を覚えてもらうため、以下のズキトップ3の演歌サブタイトル付きのビデオを作ろうと考えています。

テディベアドッグのモコ:



<https://www.youtube.com/@user-ri8yx8vn9u>
癒されます

吉幾三「雪国」



SixTONES:



https://www.youtube.com/@SixTONES_official/featured
応援しています。

美空ひばり「川の流れのように」



八代亜紀「雨の慕情」



書記：鈴木真美子

「泣ける演歌（歌謡曲）

ベスト3」

ニューヨークで生まれ育ったにもかかわらず、日本のテレビ番組を見て育った私は音楽番組をよく覚えています。『THE夜もヒッパレ』や『紅白歌合戦』を見て、出演した歌手や様々なジャンルの歌をいくつも覚えしました。その中

TFLA FALL CONFERENCE PRESENTERS

(発表順不同)

Methods that Speak to Critical Thinking

Yoshiko Fujii, Baylor University

Junko Hatanaka, The University of Texas at Austin

Yayoi Takeuchi, University of North Texas

Curriculum Design to Promote Critical Thinking

Angela Harris, University of North Texas

Tomoko Inoue, Morton Ranch High School

Yuko Prefume, Baylor University

Make Connections. Make Learning Active

Hiroko Karch, LASA High School

Elizabeth Hojo, The Woodlands College Park High School

Teacher Perspectives from Varying Backgrounds

Blake Ash, Johnson High School

Yuka Kato, Johnson High School

Elizabeth Hojo, The Woodlands College Park High School



Save the date!

**2023年 Texas Foreign
Language Association Fall
Conferenceは、11月4日から5
日まで開催されます。皆様と対
面でお目にかかれることを楽し
みにしております!**

編集後記

テキサス教師会の先生方の皆様、

初夏の日差しに若葉がまぶしく照り映える好季節、先生方におかれましては、より一層ご清福にお過ごしのことと存じます。

さて、今回もJTATの副会長としてJTATのニュースレターを担当させていただきました。記事を書いてくださった方々に、心から感謝申し上げます。ニュースレターの作成が思ったより遅れてしまい、誠に申し訳ございません。至らない点もございましたが、皆さまのご高覧を頂き、誠にありがとうございました。

来学期のSIGの勉強会やTFLAで皆様とまたお会いするのを楽しみにしております。先生方が夏休みを安全で楽しくお過ごしになれるように、心から祈っております。

何卒宜しくお願い致します。

JTAT 副会長・ニュースレター担当

ノーステキサス大学
アンジェラ・ハリス